



新人戦、総体と2冠を達成している男子の飛龍高校



全国でも上位に食い込む力を持つ女子の常葉学園高校

【ウィンターカップ2014】 2014年12月23日

男子代表の藤枝明誠は3年前の準優勝チーム尽誠学園(香川)相手に終始優位の乱れから第4Qで逆転を許し、そのまま振り切られてまさかの1回戦敗退となった。女子代表の常葉学園は初戦の奈良文化(奈良)戦で、エース篠宮が40得点を記録し快勝。2回戦では平均身長176センチと実業団チーム並みの八雲学園(東京)の高さに苦しみ敗退、大会2日目で県勢は姿を消した。

【新人戦東海大会】 2015年2月14日・15日

地元・浜松アリーナでの開催となった今年の新人戦東海大会。男子は飛龍、浜松学院、藤枝明誠、女子は常葉学園、駿河総合、浜松開誠館の各3校が出場した。大会直前に藤枝明誠を率いた三上監督が急逝するというショックなニュースが飛び込み、藤枝明誠の選手たちは喪章をつけて中部大第一(愛知)に挑み、健闘したが、初戦敗退となった。浜松学院と浜松開誠館は、共に2回戦で延長の末、四日市工業(三重)、四日市商業(三重)の三重県勢に惜敗したが、常葉学園と飛龍が全国的に見てもハイレベルといわれる東海の中で、見事3位に食い込んで静岡県の意地を見せた。

【東海高校総体】 2015年6月21日・22日

新人戦東海大会同様、地元・浜松アリーナでの開催。男子は飛龍、沼津中央、藤枝明誠、女子は常葉学園、駿河総合、浜

松開誠館が出場した。男子は沼津中央が1回戦で中部大第一(愛知)に敗れ、藤枝明誠は1回戦の美濃加茂(岐阜)には108対48で快勝したものの、2回戦で大会優勝チームの桜丘(愛知)に敗れた。飛龍は2回戦で富田(岐阜)を14点差で破

静岡県高校バスケットの現在地 Shizuoka High School Basketball プレイバック静岡・高校バスケット 2014-2015

文：中島洋己
(静岡県バスケットボール協会広報委員長・浜松市立高校教諭)

現在、全国における静岡県高校バスケットが『どのようなレベルにあるのか』を理解するために、昨年のウィンターカップから全国高校総体までの、静岡勢の東海・全国での戦いを振り返ってみたい。

【全国総体】 2015年7月28日

子は浜松開誠館、駿河総合が1回戦を突破。だがシードの常葉学園を含め3チームとも2回戦で愛知県・岐阜県勢に敗退、惜しくも上位入賞を逃した。

京都府京都市で行われた全国高校総体。男子の飛龍は初戦の札幌工業(北海道)戦を危なげなく乗り切ると、2回戦で、今年創部3年目で北信越総体を征した新興勢力、北陸学院(石川)の攻撃をロースコアに封じ勝利。3回戦では飛龍・原田監督の母校、福岡第一(福岡)と対戦、敗れたものの最後まで執念を見せた。藤枝明誠は初戦で強豪として知られる北陸(福井)と対戦、一時は1点差まで追い上げたが最後に力尽きた。

女子は常葉学園が初戦の高岡第一(富山)、2回戦で東海総体3位の四日市商業(三重)に快勝、8強を狙った3回戦では小林(宮崎)と対戦。常葉の主力と小林の主力が、3年前の埼玉全中準決勝でそれぞれ常葉学園中・五十川中として対戦し常葉が惜敗した因縁の相手。今回はリベンジを狙ったが、55対69で小林に敗れた。駿河総合は初戦から強豪・山村学園(埼玉)と対戦。不利の下馬評を覆し、司令塔の浜辺が3Pを6本決めるなどオフエンスにリズムを見だし、2年連続の初戦突破。2回戦はエースのオコエを擁する明星学園(東京)の高さを生かした「全員リバウンド」の前に敗退した。ちなみに女子決勝は桜花学園対岐阜女子の東海対決。男子の準優勝も桜丘(愛知)となり、東海のレベルの高さが際立った大会でもあった。